

非暴力平和隊・日本(NPJ) ニューズレター

第58号

2016年2月12日発行

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 1階 A 室

Tel: 080-6747-4157 E-mail: npj@peace.biglobe.ne.jp

Fax: 03-3255-5910 Website: <http://np-japan.org/>

Nonviolent Peaceforce Japan Newsletter

・【巻頭言】9条堅持を目指す2000万署名	理事・事務局長	安藤 博	2
・ NP アライアンスの第1回会議開催	理事	大橋祐治	6
・ 宜野湾市長選管見			
轟音撒くオスプレイ仰ぎ	会員	岡安茂祐	8
・ 辺野古の闘いはゲート前と海上、さらに法廷へ	理事	大畑 豊	11
・ 波紋を呼ぶ 反基地の村・読谷村が基地の受け入れ	理事	大畑 豊	18
・ 「体験しよう非暴力トレーニング+沖縄報告」			
を開催して	会員	川辺希和子	19
・ 冬季カンパ御礼		事務局	22
・ 事務局より			23
・ 総会案内			24



NP アライアンスの
コーディネーター
Simonetta
Costanzo Pittaluga
.....

国籍：スペイン
元 NP 共同代表
(記事 6 頁参照)

資料2 「戦争法」成立後の行動

(総がかり行動通信20号2015/11/19から)

戦争をさせない総がかり行動実行委員会

私たち大多数の良識と希望を足蹴にして、安倍政権は日本国憲法に違反する「戦争法」を強行採決しました。

(中略)

私たちはあきらめていません。日本国憲法のもとで、さらにこれから力を尽くし、全国で運動を強化します。

1. 「戦争法廃止を求める統一署名」運動にとりくみます。
全国津々浦々まで、細やかなネットワークを結び、戦争反対の声を拡げます。
2. 沖縄県民の意思を蹂躪して進められている辺野古新基地建設阻止のため、「オール沖縄」の闘いと連帯して、闘います。
3. 「戦争法」違憲訴訟を支援します。
4. 9月19日の「参議院強行採決」という暴挙を忘れず、必ず廃止する決意を込め、毎月「19の日」行動に全国でとりくみます。
5. 毎月第3火曜日、全国各地で、「戦争法廃止・立憲主義確立」の街頭宣伝活動を行います。
6. 安倍内閣の退陣をめざして、野党と連携してとりくみます。
7. さまざまな集会・行動を全国各地でとりくみます。

資料3 「総がかり実行委員会」の結成にあたって

安倍政権は、昨年暮れの衆院総選挙での「勝利」をテコに、戦争する国づくりから憲法改悪へとますます暴走の勢いを強めようとしています。そのために秘密保護法を強引に制定・施行し、武器輸出を促進し、防衛予算を急増させ、沖縄・辺野古への新基地建設を強行し、集団的自衛権の行使など海外で戦争することを

「合憲」とする憲法違反の閣議決定を行い、日米防衛ガイドラインを改定し、戦争関連法案を国会に提出しようとしています。さらに安倍首相は、明文改憲をめざすと明言しています。

この暴走を止めるには、国会で与党が圧倒的多数を占めている現状では、大きな世論の力を強め、それを体現する広範な人びとの声と行動を示す必要があります。そのため私たち3団体（＜戦争をさせない1000人委員会＞、＜解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会＞、＜戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター＞）は、これまで独自に、また随時共同して行動してきた経過のうえに立ち、一つにまとまって総がかりで共同行動を進めていくことにし、2014年12

月 15 日に「総がかり行動実行委員会」を
 結成しました。この共同行動は、これまで
 私たちの運動がなかなか超えられなかつた
 相違点を乗り越え、戦争する国づくりを
 くいじめ憲法理念を実現するために大同団結し、
 広範な方々との共闘をめざすものです。

(後略)

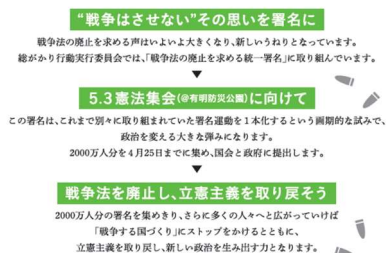
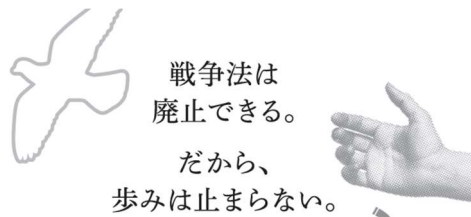
2015 年 2 月

戦争させない・9 条壊すな！総がかり
 行動実行委員会（略称；「総がかり行動実行委員会」）



総がかり行動実行委員会は、2 月 8 日夜、
 東京・文京シビックホールで開いた集会で、
 2000 万人を目標にした統一署名運動、
 毎月 19 日に全国で行動を続けることなどを訴えた

(『しんぶん赤旗』、2016/02/09)



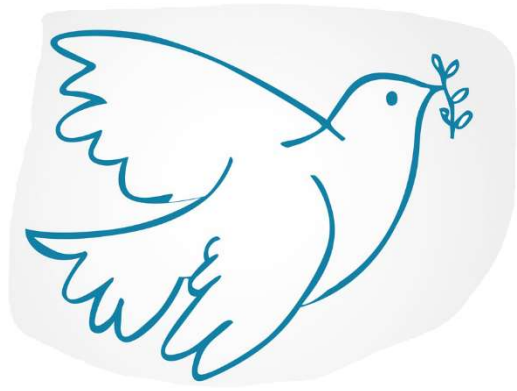
「2000万人署名」にぜひ、ご協力をまわりの人にも広げてください。

カンパのお願い

行動を支えるためのカンパを募っています。ご協力をお願いします。

口座番号
 郵便振替口座番号 00120-7-634378
 口座名称「総がかり行動実行委員会」
 ゆうちょ銀行口座 〇ー九店019
 当座 口座番号 0634378

戦争させない・9条を壊すな！総がかり行動実行委員会
 戦争させない1000人委員会 Tel.03-3526-2920
 解散で憲法9条を壊すな！実行委員会 Tel.03-3221-4668
 戦争する国づくりストップ！憲法を守り、いかに共同センター Tel.03-5842-5611



NP アライアンスの第 1 回会議開催

理事 大橋祐治

スペインの Simonetta 女史 がコーディネーター役を引き受けて NP アライアンス の活動が始動したことは前回のニュースレター (57 号: NP トピックス 2 題) でご報告しましたが、テレカンファレンスによる第 1 回の会合が 1 月 20 日に開かれました。私も会議に参加することで準備を進めていたのですが、初めてのテレカンファレンスで準備が間に合わず、また、なにぶん日本時間午前 1 時からでしたので参加できませんでした。以下の報告は NP アライアンスのウェブサイトに掲載された内容を中心としたものです。ウェブサイトに記載されていることだけからはなかなか十分理解できたとは言えません。その点ご理解の上、大まかな状況・流れを把握いただければと思います。やはりテレカンファレンスに参加する必要があると思います。どなたか手を挙げて頂ければ幸いです。

◆日時: UCT (協定世界時) 2016 年 1 月 20 日 16:00~17:20 (日本時間: 21 日 1:00~)

◆参加者

- ① Simonetta CP ス スペイン NGO
- ② Outi A 独 NPI 役員・総務
- ③ Debby P 米 NPUSA 代表
- ④ Ellen F 米 NP コンサルタント
- ⑤ Rachel J 英 英 NGO
- ⑥ Stephan B 独 独 NGO
- ⑦ David G 米 NP コンサルタント
- ⑧ Alessandro R 伊 NPI 役員

参加表明、当日不参加

- ⑨ Lucy N (パレスチナ) NPI 役員

⑩ Christine S 独 独 NGO

⑪ Ann F 米 NP コンサルタント

⑫ Yuji O 日 NPJ

参加者は当日不参加も含めてすべて NP 発足時の メンバー団体 (MO) であり、ニュースレター 55 号 (NP アライアンスの現状について) に記載されている参加メンバーに所属しています。現 NPI の役員も 3 名リストにあり、NPI の NP アライアンスへの期待を示しているものと思われます。

NP コンサルタントと表記されている方々は、これまで NP でスタッフやフィールド・ワーカーとして活躍された方々です。

◆会議の内容

① NP アライアンスの目的については NP の機構改革の段階 (2014 年前半) で明確になっており (MO は参画から支援へ)、どのように運営していくかが課題となっています。詳細についてはニュースレター 55 号 (NP アライアンスの現状について) を参照ください。最終的には運営形態をどうするのか、具体的にどのような分野で NPI を支援できるのかなどに的が絞られると思いますが、今回は第 1 回目であるので顔合わせ的な会議であったと思います。会議参加者の共通の関心事は何かを見出す試みであったと思います。

② 参加者から、それぞれの活動状況について報告がありました。米国や英国のメンバーから “awareness raising” に力を入れているとの発言に注目しました。NP はどんな活動をしているか? UCP の活動とは何か? その有効性は、などの啓蒙活動です。

③ UCP 活動に従事している団体は、規模の大小を問わず数多くあります。NP アライアンスに参加している NGO も独自に UCP 活動を行っています。そこで、NPI 以外の UCP 活動を行っている NGO との連携とそれによるシナジー効果についての意見交換がなされました。他の NGO の利点の活用もある。

④ そのためには他の NGO に対して NPI の得意分野は何か、つまり差別化できるスペシャリティは何かの議論でした。Ellen は UCP についてのケース・スタディを行っており 5 月に発表できると発言。Ann Frisch（会議には参加しなかったが事前に報告）は、NP にこれまで参加したすべてのスタッフのリストアップの作業をしていること、それに加えてロータリー平和奨学金の卒業生（1000 人に達するとのこと）のリストも作成しており、これらの人々とのメールによる交流などを通じて NP アライアンスの戦力に結び付ける可能性について言及。

⑤ NP アライアンスのメンバーもそれぞれ得意分野 (expertise) を持っているだろうから、それらの情報をシェアできるようにしてはどうかとの意見或いは、NP アライアンスメンバーの一体感を作り上げるために、多数が賛同する共通のプロジェクトを立ち上げることの提案などあった。

⑥ Simonetta が以下を提案して閉会；

- ・すべてのメンバーがウェブサイトに見
見・提案を書く
- ・プロジェクトを行っているメンバーがプロジェクトのコンセプト・ノートを提出
(ウェブサイト)
- ・メンバーの得意分野 (expertise) につい

て、各 NGO に質問書を送る

- ・1.5 か月後に第 2 回を開催し、共通のプロジェクトなどについて議論する

◆上述の会議の内容②で“…米国や英国のメンバーから“awareness raising”に力を入れているとの発言“、すなわち NP の啓蒙活動を紹介しました。NPJ の規約によれば；第 1 章第 3 条 (目的)「本会は、非暴力的方法により紛争地域の平和構築を支援する国際 NGO である非暴力平和隊 (NONVIOLENT PEACEFORCE) の日本グループとして活動し、隊員の募集及び訓練を行うとともに、非暴力の思想及び運動を普及し、もって人権の擁護及び平和の推進に寄与することを目的とする。」とあります。そして、第 4 条で具体的な活動を示しています。

「非暴力の思想及び運動を普及し、もって人権の擁護及び平和の推進に寄与」していることは事実ですが、NP の活動の啓蒙までには至っていません。NP からの情断が理由の一つですが、今回、大島みどりさん、徳留由美さん以降途絶えていた NP のフィールドに岡田二郎氏が南スーダン・メンバーとして赴任することになりました。NP アライアンスもやっと立ち上がりの機運にあります。今後、NP の啓蒙活動の再開を期待したいと思います。

-
- Simonetta 女史：機構改革前 NP 共同代表
- メンバー団体 (MO)：Member Organization
- NPI：NP→NP International に名称変更
- NP アライアンス：機構改革後の MO 連合
- UCP：非武装市民平和維持活動

宜野湾市長選管見

轟音撒くオスプレイ仰ぎ

岡 安 茂 祐

宜野湾市長選挙告示日の1月17日、羽田空港へ向かう前に、と思いインターネット上の『沖縄タイムス』『琉球新報』の記事に大急ぎで目を通したが、タイムスの社説を読んで仰天した。「争点があはつきりしない」——これがそのタイトルだったのである。

現職市長の佐喜真淳氏が再選を懸け出馬表明の記者会見を行ったのは昨年9月5日、対する市長候補者として翁長雄志県知事同席で志村恵一郎氏が立候補の記者会見に臨んだのは同年10月23日で、現職対抗候補者の出馬が遅れたとの評はあったものの、志村氏の出馬表明からも約3ヶ月後に迎えた選挙告示日の社説のタイトルとしては異様な印象を持った。この3ヶ月間に、タイムスにせよ新報にせよ、両予定候補者の政見・政策発表を追いかけ、両者へのインタビューや相互の対談まで掲載してきたし、両者の出馬会見では、どちらも先ず「普天間基地」に言及した。実際、同じ日の同紙報道記事紙面では、「“普天間”最大争点——きょう告示」との中見出しで立候補予定者両氏の政策比較と横顔を伝えているのだ。

「争点のかみ合わない選挙ほどむなしなものはない」との一節で結ばれるこの社説のタイトルは何故なのか。同社説は、「前哨戦」における両立候補予定者の「辺野古」をめぐる基本政策を要約して対比し、「字面だけでは違いが分かりにくい」として、次のように述べる。

「決定的な違いは、志村氏が新基地建設

に反対する姿勢を鮮明に打ち出しているのに対し、佐喜真氏は『辺野古』の賛否に触れていないことだ。『辺野古』を争点化しないという佐喜真陣営の選挙戦術は徹底している。／わかりにくい選挙である。／安倍政権は『辺野古が唯一の選択肢』だと主張し、辺野古移設が進まなければ普天間が固定化すると語ってきた。／佐喜真氏はそのことをどう思っているのか、どのようにして早期の危険性除去を実現する考えなのか。」

つまり、社説子が、「最大の争点普天間」について争点をはっきりさせない意思あるいは力の存在に踏み込んで、これを真正面から論ずることなしに、批判を躊躇^{ためら}ったところにこの「争点があはつきりしない」とのタイトルの謎を解く鍵があり、社説子の^{いらだ}苛立ちが透けて見えるのではないか。

さて、告示日に立候補予定の2氏が届け出て、それぞれが街頭演説で第一声を上げた翌18日の第一面冒頭にタイムスは「普天間返還 手法問う—佐喜真、志村氏、立候補」と大書し、記事本文では「出発式で佐喜真氏は普天間問題について……名護市辺野古の新基地建設については言及しなかった」とし、他方、「志村氏は、第一声で辺野古の新基地には明確に反対すると述べ、……また一緒に壇上に並んだ翁長知事は『普天間を脅しに使う新基地を造ることは絶対に許されない』とし」と知事の発言を拾った。

ここでもタイムスは「辺野古の新基地建設については言及しない」ということが何を意味するのか、この点について踏み込んだ記述をせず、対立陣営の主張を引用して

引き下がる社説子の論法が踏襲されている。

他方、新報は同じ18日第一面に「佐喜真、志村氏が対決—普天間が最大争点」の一番見出しの下に、佐喜真氏の演説要旨の小見出しは「基地の固定化にノー」、また志村氏の演説要旨には「辺野古新基地に反対」の小見出しを付けつつも、記事本文では「辺野古移設の推進か阻止か。両陣営を支える『政府・与党』対『翁長県政』の対決構図も鮮明になり、激しい選挙戦が展開される」と記述している。

沖縄を代表するリベラル2紙の間のジャーナリズムの対比が鮮やかに示されたとも考えられるが、同時に、このたびの宜野湾市長選挙戦は、先のタイムス社説子の苛立ちに匹敵する“イメージ操作”による展開だったと言えるかもしれない。

羽田空港から那覇空港へ着き、空港近くでレンタカーを借りた私は先ず市内若狭の瀬長亀次郎記念「不屈館」に立ち寄った後に、国道58号を北上し浦添市内で国道330号に乗り換えて宜野湾市内に入った。宜野湾市役所はこの国道330号沿いにあり、佐喜真アツシ選対事務所はその同地区である野嵩にあった。市役所前の小広場にはシンボルカラー青色の幟が林立し、選挙運動期間を通じてこの広場は佐喜真陣営の集会所であり、パレードの集合場所でもあった。市役所から北へ徒歩5分程の位置には野嵩交叉点に臨む普天間飛行場・野嵩ゲートがあり、さらに徒歩7、8分先の普天間南交叉点付近にシムラ選対事務所が置かれ、林立するシンボルカラー若緑色の幟で囲まれていた。私が目指したのは此処である。

つまり、普天間飛行場を後背に持つ野嵩ゲートを挟んで国道330号沿いの1キロ以内の2地点において、一騎打ち選挙戦の両陣営が対峙し、宜野湾市域の中核部の約四分の一の面積を占める普天間飛行場を取り囲むドーナツ状の市民居住地域へ両陣営運動員がそれぞれ出かけて行き、ビラ配り、デモ行進、街頭演説、街宣車周回などの選挙運動を1週間展開したのである。

選挙運動期間中前半は曇天だったが、「三日攻防」と言われる最終盤は土砂降り、しかも沖縄本島全土に強風が吹き、氷雨による低温続きの日々で、選挙戦は「横一線の攻防」との観測が飛び交い、運動員同士の摩擦の報もあるなど、天候に逆らう白熱したものがあつた。

シムラ選対の応援運動員として、宜野湾市以外の沖縄の市民と全国から馳せ参じた市民から成る「統一選対」の下で主に活動した私は、稲嶺進名護市長再選の選挙戦、翁長雄志知事実現の選挙戦の中で出会い、共に働いた顔見知りの幾人かと再会した。——北海道、宮城、福島、千葉、東京、神奈川、愛知、奈良、大阪、兵庫、高知、福岡、鹿児島、そして沖縄各地の平和運動団体活動家たち。今度も、私のような現役引退した者ばかりでなく、職場に休暇願を出し、または有給休暇を注ぎこんで渡沖した青年たちに沢山出会い、彼らの颯爽とした働き振りに励まされもした。

私は事務所外の活動では、連日仲間4人でチームを組み、市内をくまなく地区割りされた内の担当地区で、アンプ付きメガホンを携行して、街頭宣伝・チラシ配り、街

角演説などをする活動に従った。われわれ4人は互いに初対面で、70代の女性(千葉)と私(山梨)、60代の男性(奈良)、40代の男性(鹿児島)のチームだったが、鹿児島の男性は現役で、休暇を取って参加しており、その彼と千葉の女性は沖縄生れだった。

シムラ選対では10分以内の街頭演説に力を入れていたので、割当て地区の要所々々でシムラ候補の政策要目を訴え、シムラ候補の勝利こそが普天間基地の廃止と新基地建設阻止につながる第一歩になると強調した。勿論、これとは別に街宣車は朝8時から夕8時まで市内を行き交い、候補者あるいは支援者がマイクを握り、広場では街宣車を止めて演説会を催した。

忘れ難いのは、わがチーム4人が土砂降りの中を、幟は強風に煽られ、アンプ付きメガホンを抱えながら、宜野湾市が接する西海岸に近い大山ゲート付近の細道を辿っていたとき、後ろから接近してきた街宣車上で基地廃絶とシムラ候補への支持を力をこめて訴える翁長知事の姿である。翁長知事はほぼ連日公務の間を縫って街宣車に乗り、演説会でマイクを握った。夫人もまた選対事務所に詰めて事務や応接に従っていた。まさに知事選の時の那覇・うまんちゅの会事務所を彷彿とする光景だった。

街宣に歩いていると、「宜野湾が一番」を専ら連呼し、「ナショナリズム」を訴える街宣車にも度々すれ違い、またこちらの声と競い合う機会もあった。「三日攻防」の中日には、束の間の雨上がりの正午近くに、両陣営街宣車の「ウグイス」が競い合う上空を、普天間飛行場に駐機するオスプレイ24

機の内の1機であろうか、轟音を撒き散らして昇降訓練飛行をした。曇天の厚い雲に反響してか、その轟音は両陣営街宣車の競い合う声を掻き消して人の腹部に響いた。

投票日前日午後3時からシムラ選対事務所前路上では最後の演説会が冷たい雨の降り続く中に開かれ、大型街宣車ルーフの演壇には志村候補、翁長知事、稲嶺名護市長、照屋衆議院議員・糸数参議院議員など国会議員や「オール沖縄」の面々が次々に立ち、翁長県政と連携する志村市政による普天間基地閉鎖・辺野古新基地建設阻止と宜野湾市政改革を訴えた。人の波は道路を挟んで市民駐車場前まで広がり、一時交通止めになるほどの聴衆を集めた。街宣車の脇でビニール雨具に身を包んで佇む鳩山由紀夫氏の姿も印象に残る。

投票日午後8時の開票終了時からシムラ選対は平静だった。9時前のNHK沖縄の出口調査報道で佐喜真氏の当確予想が流れ、9時5分には琉球朝日放送が当確を報じてシムラ選対本部は志村氏の敗戦を認めた。確定得票は、佐喜真氏27,668票に対し志村氏21,811票、その差5,857票、投票率68.72%だった。私は僅差と見る。

この結果を報じたタイムス、新報ともに明言を避けているが、宜野湾市民の「民意」は辺野古新基地建設による普天間基地移設を企図する「政府・与党」を信任し、「翁長県政」に不信任を突きつけたのだ。まさに、安倍政権の沖縄民衆に対する米軍基地をめぐる“分断統治”が功を奏したのである。

この次にこそ、日本国民の「民意」が問われるのではないか。(会友)

辺野古の闘いはゲート前と海上、さらに法廷へ

理事 大畑豊

12月14日成田発7:40という朝早い便だったが、ほぼ満員。最近は格安航空会社を毎回使わせてもらっており、安く助かっている。私が沖縄に初めて行った30年近く前は往復7万円ほどかかっていたことを思うと隔世の感がする。

前回10月に来た時にはちょうど翁長知事が辺野古新基地建設に伴う沿岸埋立ての承認取消しの翌日であり、地元新聞の一面には大きな記事が出ていた。今回那覇に到着した12月14日の夜には新基地建設阻止に向けた、政界、経済界そして市民団体を網羅する新組織「辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議」の結成大会が宜野湾市で開催された。それまで各自治体ごとに独自に作られていた島ぐるみ会議は横のつながりがなく連携した動きができにくかったが、今後は協働体制ができたことになる。



ゲート前警察車両に張られたプラカード

これにより、辺野古のキャンプ・シュワ

ブゲート前での座り込みも強化され、これまで水曜を大結集の日と設定し、工事を止めてきていたが、今後は木曜日にも大結集をし、

週2日は工事を止めよう、と呼びかけられている。

15日には那覇で「平和のための退役軍人の会」ベテランズ・フォー・ピース（VFP）の集会があった。VFPは全米120以上の支部、会員数は4000人。今回「琉球・沖縄支部」を立ち上げたことも報告された。元空軍兵のブルース・ギャクノンさんは、ベトナム戦争時代、フェンス内から基地前の反戦集会を目の当たりにして平和運動への意識が芽生えたという。基地前で反戦集会があれば、基地内でも話題になり、自分のいた兵舎内でも戦争に疑問を持つ人たちが議論をしていて「異端者」の兵舎に入ってしまったと最初は警戒していたがだんだんに考えが変わっていった、とのことだった。

VFPのメンバーは辺野古での座り込みへの参加や、普天間基地、高江も訪問、沖縄国際大学での学生が主催したイベントにも参加した。学生は沖縄戦など戦争被害の話はよく聞くが「戦争に参加した側の話しは初めて聞いた」。元兵士たちは、人を守っていると思っていたが、実際は苦しめていた、戦争は終わっても自分の戦争は終わらない、帰国後も悪夢を見て苦しんだ、帰国翌日に自殺する兵士が多い、などと語り、学生たちはその

生々しい話に驚いていた。

翌 16 日には辺野古ゲート前での座り込みに参加したが、ちょうど水曜、大結集の日で機動隊、工事車両が来ることはなかった。しかし、17日は機動隊の対応がひど過ぎると抗議し、警備会社アルソックの警備員を市民がゲート内に押し込み、入口のジャバラゲートを市民が封鎖、ゲート内の鉄板部分も「もともと市民の歩道だ！」と十数人で占拠した。その後機動隊がゲート前を封鎖し少し膠着状態が続いたあと、ジャバラゲート解放と交換にゲート内にいる市民を解放した。



ジャバラゲートを封鎖する市民

18日は早朝行動のあと、高江の忘年会に参加。忘年会メニューのメインはヤギ一頭をみんなで解体して作ったヤギ汁と刺身。そのほかにおでん、廃鶏汁、うなぎの串焼きなどだった。うなぎと言ってもウツボのようなでかいもので、おいしかったらしい。「らしい」というのは、私はおでんの準備に昼からかかっており、準備しながらつまみ食いしていたので、会が始まる頃には満腹になってし

まっていた。

19日にはゲート前に台湾人権協会の5、6人が「社員旅行できました」とやって来た。一人は流暢な日本語を話し「みなさん、ご苦労さまです。台湾でもみなさんと同じようなことをしています」と連帯のあいさつ。みんな若く「最年長でも31歳。給料が安いのでこれくらいの歳になると普通の仕事に就くので」とゲート前の笑いをとっていた。

個人的にもいろいろ台湾のことを聞いてみたかったが、伊江島に渡るフェリーの時間もあり、残念ながら話しの途中でゲート前を離れた。



台湾人権協会の人たち

なお、21日には警視庁から派遣されていた機動隊が東京に帰り、年内は工事車両もこの日以降こなくなった。25日、那覇地検は北海道から座り込みに来ていたKさん、77歳、を傷害と公務執行妨害の疑いで起訴した。Kさんが12月5日、真喜志中隊長の足を蹴る暴行を加え、全治2週間のけがを負わせたとしている。逮捕されたときには公妨だけだった

たが、理由開示請求で傷害も加わっていることがわかった。



真喜志中隊長

真喜志中隊長は翌日も従前通りゲート前警備の指揮をとって走り回っており、ケガについて疑う声も聞かれる。彼はもともと警備指導が乱暴であったり、自らも市民を蹴飛ばしたりして「暴力警官」として有名だ。昨年、15人ほどが逮捕されているが釈放されており、起訴されたのは初めてとなった。15人も逮捕しておいて一人以外起訴できていない、というのは、もともと不当逮捕である、ということをお話しているといえる。26日には保釈されたKさんがテントを訪れ、元気な姿を見せて皆を安心させてくれた。

年末年始は伊江島「わびあいの里」で里の「反戦平和資料館ヌチドゥタカラの家」は年中無休なので、そんなに多くはないものの、連日全国からの訪問客が来た。なかには珍しい？お客さんもいる。阿波根昌鴻さんをモデルに作られたといわれる映画「沖縄」(1970年)で主演した佐々木愛さんが年末にひょっこり来館

された。「みんなに伊江島に行け、行けって言うていたけど、自分が行ってないのに気がついて」と笑いながら話されていた。謝花悦子館長と一時間ほど話され、その後、島内をご案内した。最初は気にしてなかったが、案内している途中で、乗せているのが「大女優」ということにふと気づき、もし事故でも起こしたらたいへんと、案内の後半はとても緊張した。

島内案内を終え、無事港にお送りし乗船されたので、船が出るのを待っていると、「お世話になりました～」と佐々木愛さんの声。船から降りて来たのかと皆びっくりして振り向くと、なんと船の上からだった。さすが女優、声が通るね、と皆で感心した。



謝花館長と佐々木愛さん（右）

年明けには韓国からもふた家族がやってきた。日本語も流暢な河才苑（ハ・ジェウオン）さんは3年前、高校一年のときに平和交流で沖縄を訪れ沖縄が好きになり、以後、独学で日本語を学び、現在新潟の専門学校に通っているが、彼女は5月から沖縄で音響の仕事につき、そ

の後、沖国大で平和学を学びたい、と言っていた。あとで新聞記事を見て知ったのだが年末に那覇市であった「マチグー一紅白歌合戦」に出場し韓国民謡を歌い「沖縄に住みた〜い！」との思いを爆発させていたようだ。

年明けの最初の行動

1月4日、参加者約130人。作業車両、機動隊は来なかった。今年初めての座り込みということもあり、警戒しながらも、歌や踊りで盛り上がり団結を確かめ合った。

5日は参加者70人と少なめ。警視庁からの機動隊が沖縄入りしたとの情報。関係者によると人数は前回派遣と同規模で約90人、5月の伊勢志摩サミット前まで県内に残るとみられる。また警視庁のみならず、全国の県警からも動員されるとのこと。浜ではオイルフェンスやフロートを設置する作業やボーリング調査が再開された。寒い中、海でのカヌー隊の抗議行動も続いている。



ゲート前に立ちはだかる機動隊

6日、6時過ぎ警視庁機動隊5台（練馬、品川、足立ナンバー等）、県警6台が基地内に入ったがこの日は出勤はなかった。早朝より雨がひどく降り、ゲート前にも雨よけのテント張る。

ゲート前の中心的存在である山城博治（ヒロジ）さんが多田謡子反権力人権賞を受賞したのだが、その副賞20万円を辺野古弁護団へ寄付した。「ひっそりあげようと思ったのに」と皆に公表されて照れくさそうであったが、すぐにヒロジ節が炸裂し、警察は怖くないが地検は甘くない、と話し出した。それを受けて大阪から来ていた刑事専門の弁護士が警察に捕まったときの対応を説明。逮捕されたら黙秘、弁護士が来るまで話さない。しゃべっても署名・押印しないこと、と説明。また刑事特別法の専門家というのはいなく、それに一番詳しいのは外務省なので、弁護士、裁判所もいいなりになる。刑特法は国際法の分野・・・と話していると稲嶺市長がやって来て飛び入り参加。雨もやんできて、作業車両も来ず、ゲート前は盛り上がった。



テント前の稲嶺市長

7日、100人。雨はパラリときたが降らず。機動隊対策も兼ねてテント張る。この日から警視庁、県警機動隊による排除も始まる。来週からはオール沖縄会議のもとで、木曜も大結集されるので、水曜に引き続き、作業阻止への期待が膨らむ。

伊江島に来たハ・ジェウォンさんが出身校の以友（イウ）高校の一年生13人を案内して辺野古に来た。同校は自由な校風で知られ、毎年自分たちで行き先を決め、今年は沖縄に来たそうだ。「韓国でも米軍関係の事件事故が起きているが、沖縄でも起きていると知った」とあいさつしアリランを演奏してくれた。何人かはこちらからは何も言わなかったのに、置いてあった「新基地阻止」のプラカードを持って通りすぎる車にアピールをしてくれていた。また昨年9月22日にゲート前に来ていた韓国人男性（29）が妊婦の妻（29）を守ろうとして公務執行妨害で逮捕され10日2日に釈放されたが、その子どもが「5日に生まれた」と、ハ・ジェウォンさんから報告されると、皆が拍手をして喜んだ。

この日、午後1時半と3時半にも工事車両による搬入があった。

これまでは朝、あるいは午前の早い時間に搬入がなければその日はもう工事車両は来なかったが、この日以降、座り込みの隙をねらって日に数回、搬入がされる

ようになった。

午後には高江に行ったが、午前、辺野古に来ていた韓国の高校生たちもやって来た。伊佐育子さんが説明されていたが、その祖父の戦争体験も話しもされ、たいへん興味深そうに聞いていた。



韓国の高校生

ここで会った北海道教育大の学生に伊江島にも来て、と誘うと、すでに決まっていた忙しいスケジュールにも関わらず、後日資料館に来てくれ、メモをとりたいへん熱心に話しを聞いてくれた。教師志望とのことで、将来に期待したい。

高江に一泊したので8日は高江からゲート前に向かった。昨日の行動で腰を痛めたらしく、少し痛むので、今朝は混乱したところからは少し離れたところで抗議のアピール活動に参加した。9時半ごろ、皆が休憩に入り、スタッフも会議で引き上げたところでトラック搬出があり、残っていたのが20~30人だったので、いきおいみんなと座り込んで抵抗したが、多勢に無勢、結果は見えていた。

今回の滞在での私のゲート前行動参加はこれが最後となったが、もちろん座り込みは連日続いている。市民がブログやフェイスブックに投稿する写真、地元二紙のウェブサイトなどを見ていると動きに変化もあり、ゲート前にコンクリートブロックを1400個以上積み上げたりもしている。全国の支援者からもブロックが送られてきて、かわいい絵やメッセージも描かれている。しかし、これらのブロックが警察に押収されてしまったらしく、またもとの座り込みに戻った。またこれまでのゲートとは別の第2ゲートと呼ばれる弾薬庫近くのゲート封鎖にもとりかかったようである。これは基地機能麻痺にもつながる行動なので、これには海兵隊も危機感をもって注意を払っているようである。

法廷での県と政府との闘い

ゲート前での闘いのみならず法廷での県と政府との闘いも果敢に行なわれている。

県知事の辺野古埋め立て承認取り消しを受けて、政府が福岡高裁に代執行訴訟を昨年11月17日に提訴し裁判が始まっているが1月29日の第3回口頭弁論では、裁判所から行政事件の訴訟では異例の和解案が出されている。12月25日には、県が、国交相による知事取消しの効力停止の決定は違法だとして政府を訴えた抗告訴訟を那覇地裁に提訴した。米軍基地をめぐる県が国を訴えるのは県政史上初となる。

さらに12月24日には、沖縄県が国地方係争処理委員会に、県知事が出した埋立承認取消しを国交省が執行停止したことに対し、是正を勧告するよう求める審査を申し立てていたが、この申し出を不適法として却下した。これを受け県は地方自治法に基づき2月1日、国交相の執行停止決定の取り消しを求め、福岡高裁に提訴した。係争処理委の判断を不服として提訴するのは沖縄県が初めてとなる。辺野古移設をめぐる県と政府との訴訟は3件目となった。

これに加え住民側も2件の裁判を起こしている。仲井真・前沖縄知事の下した埋め立て承認は違法として取消しを求めて2014年1月に県を提訴し裁判が行なわれており、また昨年12月24日には名護市辺野古周辺の住人が新基地が建設されると被害が生じると国交相の執行停止を取り消すよう求め那覇地裁に提訴した。これらを含めると辺野古新基地関連の裁判は5件となり、それぞれの成り行きが注目される。さらにもう1件、新基地建設を容認する宜野湾市民が2015年10月、沖縄県を提訴し、翁長雄志知事の埋め立て承認取り消しを無効にするように求めている。

伊江島に米陸軍艦船2隻 初入港

最近の動きとして米陸軍所属の揚陸艇2隻が1月26日、初めて伊江港に入港するということが起きた。2月5～8日にも入港する予定という。地元紙によると、軍事演習備品の運搬が目的とのこと

だが、これまで演習で使う物資を運搬する際は、民間船をチャーターしていた。本部発伊江島行きフェリーにも米兵約110人が乗船、村内の県道で米兵約80人が大型リュックを背負い、車道を4列で米軍伊江島補助飛行場向けに歩く様子もみられた。日米地位協定で米軍の施設間の移動を認めているが、県などは隊列で進む「行軍」は周辺住民に不安を与えるため、米側に繰り返し自粛を求めている。

島袋村長は29日、井上一徳・那覇防衛局長に対し（1）訓練では従来通り民間チャーター船の使用（2）公共交通のフェリー出港に遅延を生じさせたことは遺憾（3）米兵が村内を隊列で進む「行軍」の自粛、を米側に伝えるよう申し入れた。住民も「早朝から夜間まで頻繁にヘリなど飛び、眠れない時もある。やめてほしい」と話している。

伊江島では、地下ダム建設に伴う移設と称して、60年前に作られた米軍通信所が、税金25億円を使い1.7倍の広さとなって建設され、前回のこの報告でも言及したように、伊江島演習場内にはF35戦闘機やオスプレイ用の施設が新たにつくられようとしている。

政府は沖縄の基地負担軽減と機会あるごとに言うが、実際にしているのは機能強化である。宜野湾市長選前に普天間飛行場等米軍施設の一部返還を発表したが、その面積は沖縄県内の米軍施設面積の0.03%にすぎない。

年末年始に阿波根昌鴻さんの書かれた

『米軍と農民』（岩波新書）を久しぶりに読みなおしたが、その最後には阿波根さんはこう書かれている。

「今のまま闘いが進んでいくと、七〇年代の末までにはきっと平和は近づき、土地も完全に取りかえず、確信をもっております」

当時はそのように確信を持てるほど強い闘いが伊江島では行なわれていたが、現在はことあるごとに村議会が抗議決議や申し入れはおこなってはいるが、それ以上の動きはない。辺野古・高江では根強い抵抗運動が行なわれているものの、伊江島ではそのような運動は残念ながらない。伊江島がこのままどんどん「要塞化」していってしまうことが懸念される。



座込み 551日（1月8日）

波紋を呼ぶ 反基地の村・読谷村 が基地の受け入れ

理事 大畑豊

伊江島・わびあいの里の前理事長は読谷村の元村長・山内徳信さんでした。読谷村は6期24年の山内村長時代に、米軍から軍用地を取り戻し、村役場や運動場などの公共施設を基地跡地に次々に建てていき、「脱基地行政」「文化行政」の象徴的な村でもある。村長室には憲法9条と99条が掲げられていた。

その反基地の象徴的な存在である読谷村が牧港補給地区（キャンプ・キンザー）などの一部施設を村内の米陸軍トリイ通信施設に移設することを受け入れ、米軍基地再編交付金4200万円を受け取る方針を昨年12月に決定した。石嶺傳實（でんじつ）村長は「やむを得ず受け入れた。交付金を使って今後起こる障害を除去する。基地歓迎の意味はない」と話した。

村は当初、移設受け入れに反対を示していたが、村も自治会も手の及ばない基地内では関連工事がすでに進められている。こうした現状を鑑み、地元3自治会からの要請も受け、交付金の申請を決めたという。石嶺村長は「読谷補助飛行場を伊江島に移設した歴史もあり、苦渋の決断をした」と、パラシュート降下訓練が読谷から伊江島に移転された歴史にも言及した。降下訓練は現在も伊江島でおこなわれており、演習地外に誤って降下してくる被害が今後も後を絶たない。

米軍基地は「経済発展の阻害要因」（翁長知事）であり、その整理縮小は、読谷村

の基本理念でもあった。石嶺村長に対しては、公約違反ではないか、との批判も寄せられているが「辺野古を含めた新たな基地はつくらせないという思いは変わっていない」と主張している。

交付金といえば、政府は、辺野古新基地建設予定地の地元3区（辺野古、豊原、久志）に市を通さずに直接補助金を交付する新たな制度を昨年11月に創設した。うち辺野古、豊原の2区へは今年度分として計2,300万円交付することを決めた。久志区は態度を保留している。同補助金は移設計画に賛同することを事実上の要件としているが、三区長とも新基地建設は望まないという考えを示している。

名護市の稲嶺進市長は「特定の地域を対象にした補助金は（市と住民の）分断工作であり、アメとムチの最たるものだ。地方自治をないがしろにする以外の何物でもない」と批判した。

もともとは戦後の米軍統治下、「銃剣とブルドーザー」によって強制的に接收され、つくられた米軍基地。平和憲法のもとへ、と夢見た復帰後の日本には、平和憲法ではなく安保条約だけが押し付けられた。基地があるゆえに、ことあるたびに、地元自治体が分断され、苦しい立場に追い込まれる。政府は地元の声を聞こうとはせずアメで、しかも強引に口の中に押し込まれたアメをなめさせる稚拙な政治を相変わらず繰り返している。こうした構造こそ今問われなければならない。

「体験しよう非暴力トレーニング+沖縄報告」を開催して

会員 川辺希和子

1月23日（土）、理事の大畑豊さんを北九州にお招きして、午前中に沖縄報告、午後の約3時間で非暴力トレーニングを行いました。企画するにあたってNPJに支援をお願いし、予算的に見通しがついたので開催することができました。貴重な2万円を有効に使わせていただき、感謝しています。午前17名、午後19名の参加でした。

非暴力トレーニングは奥が深く、体験した後になって何かしら気が付くことがあります。今回は沖縄報告も聞きたいと欲張ったので、トレーニングは3時間という短い時間設定で大畑さんは大変だったと思います。しかし、大畑さんが参加者の意見をじっくり聞いたり、それをみんなに返したりする中で、各自が自由にのびのびと発言し、互いによく耳を傾けました。一緒にゲームや作業をする中で、お互いうちとけました。その時々大畑さんから出される事例や非暴力の先達の言葉は、示唆に富んでいました。

今回の参加者は平和運動を行っている人が多く、皆の共通の関心は、軍事力強化、原発推進、安全保障関連法など、どうしたら安倍政権の暴走を止めることができるのかということでした。グループに分かれ、伝えるために何をするのかという戦略をたてました。これといった画期的な方法が出てきたわけではありませんが、作業の中

でそれぞれが良く考え、参加者同士から学び、考えを深めました。自分の現状から一歩前へ進む力が得られたかもしれません。最後に掲載した参加者の感想から当日の様子がうかがえると思います。

2月6日、非暴力トレーニングを体験したメンバー数人で小倉駅前に立ち、毎月2回行っているシール投票（安保法について）を行いました。安保法に賛成の男性が話しかけてきたので彼の話の間を伺おうと耳を傾けましたが、反論せずにはおれない内容で、互いの主張は平行線のままでした。それでも、穏やかな口調だったのでやりとりは続きましたが、別のアピールの準備をしていたAさん（戦争体験者）が近づいて来て、「あなたは人を殺したことがありますか？」と唐突に彼に問いました。「ない。」と答えた彼に向かって、Aさんは人を殺した体験を話し、「人を殺した経験のない者は、安保法に反対しなきゃならん。」と断言しました。彼はAさんの言葉に戸惑った様子で、その場を去りました。一瞬、私もこの言葉に唖然としましたが、一見筋が通ってないようなこの言葉は、空しい知識のやり取りをぶっ飛ばしてしまいました。人を殺したという告白はそう易々とできるものではないでしょうが、人が殺し殺されるという戦争の実態とはかけ離れた次元の安保法賛成の理屈を聞いて我慢ならず、告白されたのではないかと思います。Aさんによって私たちの対話（？）が中断されてしまったという気もしましたが、「人を殺したことの無い者は・・・」という言葉は強烈な存在感がありました。安保法賛成

の男性は、日本軍「慰安婦」被害者の方々について、「あの人たちは売春婦だった。」と言い切りました。今日では、当事者本人の声からではなく、様々な場所や人との出会いを通じてでもなく、限られた空間やネットの中で簡単に情報が得られる結果、非常に偏ったものをも事実と思い込みます。そうして得た薄っぺらな知識が、対話や和解を困難にしているのではないかと思います。何を事実と判断するのか迷う時、踏みこまれてきた命や尊厳の声を聴くことが欠けてはなりません。私自身は知識が足りないのでもっと勉強しなければならないと思いますが、得た知識で相手を打ち負かすのではなく、相手や第三者の良心に訴え共感を得る過程（23日の資料〔非暴力の実践上の五つの段階〕から）の実践を目指したいものだと思います。

今回の非暴力トレーニングは短時間でしたが、これまでの活動や自分のあり方を見直しながら、これからの活動に活かそうだと思っています。今回の参加者にとって、月の電気代が400円という生き方をしておられる大畑さんとの出会い自体、貴重な体験だったのではないかと思います。鹿児島県の会員青木そのみさんともお会いでき、とても幸せな学びと交流の一日でした。

（参加者の感想）

・非暴力に生きるためのトレーニングですが、当たり前ですが、このトレーニングそのものが非暴力で自由で自主的な平和な時間・空間です。

・「非暴力」は傍観者的に非難するとい

う消極的なものではなく、物理的、肉体的な暴力を用いなくて、それに代わる他の手段・方法で行動するという積極的なものであることを学んだ。想像力を育てることの大切さがよく理解できた。

・非暴力トレーニングは共同体で探していく時、自分自身の心の立ち処を捜す作業のように感じました。

・「非暴力」の意味は相手を理解することで、相手を打ち負かすことではない。共存、共生し争わないことである。相互に不利益にならないように努力することである。そのように理解しました。

・非暴力の平和・・・と言う前に、まず自分の心の中の暴力性に気付くこと、相手の話をじっくりと聞く忍耐力も必要だと、その難しさを感じました。鹿児島から青木さんという方もわざわざ参加され、大畑さんのご指導で非暴力トレーニングがみんなの笑い声の中、楽しく行われ、会場はまさに平和でした。感謝の一日でした。

・「非暴力トレーニング」の取り組みはごく当たり前のことを再認識させられました。まず話し合いの前にゲームを取り入れることの有効なことです。それも単純な「フルーツバスケット」でなく、鬼になった人がそれぞれ自分の言葉を使うことが出来、その人が何に関心を持っているか知ることが出来ます。ゲームの中で様々な要素があり、その後スムーズに言葉が出てきたように思いました。「非暴力トレーニング」と聞くと大層難しいことのように思っていました（楽しみでもありました）が、日常をちょっと切り取っただけのことで、

誰かと気軽に話が出来ると関係性を作ることだと知りました。話し始めたらまずは相手の言いたいことをしっかり聴くこと、そして認めること（否定しないこと）、自分の考えを押し付けないこと、一致点を見つけて安心すること、でもいつかは自分の考えに引き込んでやるぞと願い、実行に移す取り組みをあれこれ考えること。時間はかかりそうだけど、楽しそうだし、やりがいがあることと思われました。

・非暴力トレーニングは、やっていることはわかりましたが、その道筋？などはわかりませんでした。大畑さんの話がわからなかったのではないので、早いうちあの日買った本を読もうと思っています。それでわからない点がありましたら、あの日参加のみなさんへ教わろうと思っています。

・「勝つ方法はあきらめないこと」「平和の最大の敵は無関心である」が特に気に入った。

・辺野古で基地反対されている方々への毎日の「ごぼう抜き」、私たちの日常にはこんな屈辱的な暴力はない。あきらめず一歩引かず戦争反対！の声に原点を見ました。

・沖縄報告では、辺野古で今、毎日何が起きているか、テレビや新聞では決して知らされない、権力の横暴の実態を映像を通して見ることができました。沖縄の現地の人に寄り添って全国から応援に来ている人達、決してあきらめず、不屈の闘いを続けておられる沖縄の人に勇気をもらいました。

・沖縄の状況を沖縄県のやっていることを軸に話されて頭のなかが整理されました。

安倍首相の言葉と対極の翁長知事の言葉の「真」が美しいと感じますし、その美しさが通る社会でないと私たちみんなが幸せにはなれないと強く感じました。

・社会の中の弱い立場の人の命をお金に変えて、収奪の限りを図る構造は暴力なしには成立しない。私たち一般市民が暴力を手放す決心をすることが唯一の方法なんだろうと思う。

中途半端に恐れる気持ちが安倍のような人に付け込まれるものを生み出しているのだと思う。

回れ右して「暴力」を手放し、手段を「非暴力」にすることが「翁長さんの言葉」を現実にする術なんだと辺野古で今たたかっている人が見せてくれているんだと思う。

そのために大畑さんが高岩仁さんのブックレットを示されたことには大変感激しました。【『戦争案内 映画製作現場 アジアからの報告』（映像文化協会)】

.....

「キリスト者・九条の会」北九州

“九条守りたい”

2016年1月「九条守りたい」定例会

体験しよう非暴力トレーニング+沖縄報告

日時：1月23日(土)

10時～12時：沖縄報告

13時～16時半：非暴力トレーニング

場所：西南KCC 2F

講師：大畑 豊 さん

(「非暴力平和隊・日本」理事、元国際平和旅団)

のプログラムを専攻した。



ブラッセル事務所で（2012年）
右端が岡田二郎氏



NPJのリーフレット更新

新しい NPJ のリーフレットを同封しました。各集会での配布などご要望のある方は事務局までご連絡ください。

鹿児島での非暴力トレーニング

23日の北九州市での非暴力トレーニング（講師：大畑豊理事）に引き続き、翌24日（日）に鹿児島でも非暴力トレーニングを準備していましたが、何十年に一度の寒波予報の為に直前に中止としました。当日は、鹿児島市内では積雪4センチ、氷点下5度3分まで下がり39年ぶりのとのこと。中止は残念でしたが適切な対応でありました。

NPJののぼりを作ります！

NPJののぼりを製作中です。2つのデザインで用意しています。ご希望の方は事務局までご連絡ください。まとめて発注すれば安くなります。現在右の2案のデザインのいずれかに決める予定です。

ご意見歓迎いたします！！



→ 赤地に黄色の文字

→ 紺地に黄色の文字

→ 黄色地に紺地の文字、平和は赤字

黄色地と紺色の組み合わせ
英語と？は赤





Nonviolent Peaceforce

非暴力平和隊の理念と活動に賛同・支援して下さる個人および団体を会員として募集しています。入会のお申込みは、郵便振替、銀行振込、非暴力平和隊・日本のウェブサイトの入会申込ページをご利用くださいますようお願いいたします。

◎正会員(議決権あり)

- ・ 一般個人:10,000円
- ・ 学生個人:3000円

* 団体は正会員にはなれません。

◎賛助会員(議決権なし)

- ・ 一般個人:5000円(1口)
- ・ 学生個人:2000円(1口)
- ・ 団体 :10,000円(1口)

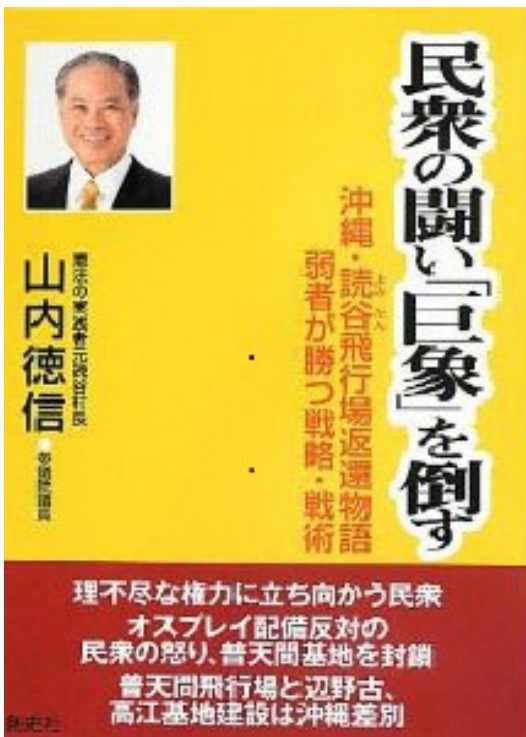
■ 郵便振替:00110-0-462182 加入者名:NPJ

* 通信欄に会員の種類を(賛助会員の場合は口数も)ご明記ください。

銀行振込:三井住友銀行 白山支店 普通 6622651 口座名義:NPJ代表 大畑豊

* 銀行振込をご利用の場合は、お手数ですが電話・ファックス・メールのいずれかを通じて入会希望の旨、NPJ事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

ウェブサイトからのお申込み : http://np-japan.org/4_todo/todo.htm#member



「波紋を呼ぶ 反基地の村・読谷村が基地の受け入れ」(記事 18 頁参照)

NPJ2015 年度総会

日時: 2016年3月19日午後2時~3時

議題(案):

- ・ 役員人事
- ・ 2015 年度活動報告/決算 (暫定)
- ・ 2016 年度活動方針/予算
- ・ その他 (次回理事会日程/場所)

場所: しんらん交流館の会議室

〒600-8164

京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町 199

TEL 075-371-9208 (代表)

京都駅から徒歩で烏丸通を北へ 15 分ほどです。東本願寺の門前を過ぎて最初の東西の通りを本願寺の塀に沿って左に曲がると、右側に建物が並んでいます。そのガラス張りのドアのあるところです。